

HP Integrity Superdome上の64ビット版
Microsoft® Windows®
README



2004年3月（初版）
製品番号 5990-8198

© 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP Integrity Superdome上の64ビット版Microsoft Windows README

2004年3月（初版）

製品番号 5990-8198

目次

HP Integrity Superdome上の64ビット版Microsoft® Windows® README	5
HP Integrity Superdome上のWindowsに関する最新情報と更新について	5
インストール対象ではないコントローラに接続されたドライブにWindows OSがインストールされる	5
Smartアレイ 6402を、ヘッドレス接続経路でブートコントローラとして設定する際の問題	5
整合性チェックの後、Smartアレイ 6402のイベントログ警告が記録される	6
イベントログでのSmartアレイ 6402タイムアウト（イベントID 9）	6
ホットスワップPCI	6
外付接続では、Smartアレイ 6402コントローラは、StorageWorks 43xx/44xxエンクロージャ（筐体）に接続されている 場合のみサポートされる	6
分割バス構成のStorageWorks 43xxエンクロージャ（パワーサプライを1台搭載）を特定のSmartアレイコントローラ に接続すると、エラーが報告され論理ボリュームが機能しなくなる場合がある	7
故障したドライブを交換するときに、Smartアレイ 530x/640xコントローラが内蔵HDDアレイを自動的に 再構築しない	7
ネットワークケーブルを接続しないでシステムを起動すると、システムイベントログにエラーが記録される	8
Adobe Acrobat Reader 6.0がWindows Server 2003, Datacenter Edition（64ビット）をサポートしない	8
カーネルメモリダンプが正常に生成されるようにするための必須手順	8
応答しないシステムでダンプを作成する	9
再インストール用メディアを使用するときに16GBオプションを使用しない	9
システムリストアメディアとページファイル	9
Smartアレイ 6400コントローラが、ADUを使用して正しいHDD IDを決定するように指示する	10
ACUを起動するためのリモートアクセスポート	10
SMS Reflection Utility	11
セキュリティQFE	11
セキュリティ情報	11
EFIに関する補足情報	12
EFIに関する補足情報	12

HP Integrity Superdome上の64ビット版Microsoft® Windows® README

HP Integrity Superdome上のWindowsに関する最新情報と更新について

1. HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）にアクセスします。
2. [HP Integrity Superdome Server]をクリックします。

注：ファームウェアおよびドライバは最新バージョンにアップデートすることを強くおすすめします。システムに現在搭載されているファームウェアバージョンを確認するには、EFIシェルで**info fw**とタイプします。

インストール対象ではないコントローラに接続されたドライブにWindows OSがインストールされる

問題：Windows OSのインストールは、対象のブート コントローラのみがインストールされている状態でサポートされます。これは、Windows OSの既知の制限です。

対策：Windows OSをインストールする前に、対象のブート コントローラ以外のブート コントローラをすべて取り外してください。取り外したデバイスのインストール位置をメモして、OSのインストール後に取り付けなおす際に参照してください。

Smartアレイ6402を、ヘッドレス接続経由でブート コントローラとして設定する際の問題

問題1：Windows NT4やWindows 2000のTelnetおよびHyperterminalアプリケーションが、ファンクションキーにASCII文字列を正しくマップしないという問題があります。

対策：PuTTY（Smart Setupで利用可能なターミナル エミュレータ）を使用します。

注：PuTTYは、日本語をサポートしていません。

問題2：電源投入時セルフテスト（POST）の実行中、Smartアレイのファームウェアは、構成情報とともに、**Esc**キーを押して続行するかまたは**F8**キーを押してコンフィギュレーション ユーティリティを起動するように指示する設定メニューを表示します。リモートのターミナルからヘッドレス構成のシステムを実行している場合、POSTの実行中に、Smartアレイ バナーは、設定メニューを表示しません。

対策：PuTTY（Smart Setupで利用可能なターミナル エミュレータ）を使用します。

注：PuTTYは、日本語をサポートしていません。

整合性チェックの後、Smartアレイ6402のイベント ログ警告が記録される

問題： Event Notificationドライバの今回のバージョンは、論理ボリューム上で整合性チェックが行われた後、Windowsのシステム イベント ログに次の「警告」メッセージを報告します。

The description for Event ID (24607) in Source (CPQCISSE) could not be found. It contains the following insertion string(s):

ストリングの例： ¥Device¥CPQCISSE0, 11, Parity/consistency initialization complete, logical drive 0.

対策： これは、ドライバの次のリリースで修正される既知の問題です。実際のメッセージは、整合性チェックの成功を報告する情報メッセージです。

イベント ログでのSmartアレイ6402タイムアウト（イベントID 9）

問題： I/O負荷が非常に重い状況では、Smartアレイ ドライバ (cpqcissm) が、システムのイベント ログにイベントID 9エラーを生成する場合があります。

対策： 現時点では、既知の解決法はありません。この問題により、データが消失することはありません。

ホット スワップPCI

問題： ホット スワップPCIのサポート

対策： 現時点で、ホット スワップPCI機能はサポートされません。最新情報については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/titaniumservers/>（英語）を参照してください。

外付接続では、Smartアレイ6402コントローラは、StorageWorks 43xx/44xx エンクロージャ（筐体）に接続されている場合のみサポートされる

問題： Smartアレイ6402コントローラは、DS2300やDS21xxエンクロージャとは互換性がありません。

対策： HP Integrity Superdomeでは、Smartアレイ6402コントローラは、外付StorageWorks 43xx/44xxエンクロージャにのみ接続して使用してください。

分割バス構成のStorageWorks 43xxエンクロージャ（パワー サプライを1台搭載）を特定のSmartアレイ コントローラに接続すると、エラーが報告され論理ボリュームが機能しなくなる場合がある

問題：デュアル バス構成のStorageWorks 43xxエンクロージャ（Ultra3デュアル バスI/Oモジュールおよび1台のパワー サプライを搭載）を特定のSmartアレイ コントローラに接続すると、エラーが報告され論理ボリュームが機能しなくなる場合があります。StorageWorks 43xxエンクロージャのポートAは、ドライブが交換されていない場合でも、下側のベイ（ポートA、ベイ1~7）にインストールされているすべてのドライブがホットプラグ交換されたという報告を断続的に行うことがあります。この結果、アレイ コントローラが論理ドライブの機能を停止するため、データにアクセスできなくなることがあります。また、そのドライブからオペレーティング システムが実行されている場合は、サーバがハングしたりブルー スクリーンを表示したりすることがあります。サーバを再起動すると、ドライブは正常に動作するよう見えますが、一部のデータにアクセスできなくなる場合があります。電源投入時セルフテスト（POST）エラー メッセージは表示されません。この問題は、エンクロージャ内のパワー サプライやファンの位置に関わらず発生します。この問題は、Smartアレイ6402コントローラに接続されたデュアル バス構成のStorageWorksエンクロージャ モデル4314R、モデル4314T、またはモデル4354R（Ultra3デュアル バスI/Oモジュールおよび1台のパワー サプライを搭載）に影響します。

対策：StorageWorksエンクロージャは、2台以上のパワー サプライで動作させてください。

故障したドライブを交換するときに、Smartアレイ 530x/640xコントローラが内蔵HDDアレイを自動的に再構築しない

問題：故障したドライブを交換するときに、Smartアレイ 530x/640xコントローラは内蔵HDDアレイを自動的に再構築しません。HP Integrityサーバのバックプレーンには、システムにホット インサートされたHDDをSmartアレイのアダプタが認識するのに必要な管理機能がありません。このため、故障したドライブを交換するときに、SmartアレイはHDDアレイを自動的に再構築しなくなります。

対策：以下の手順を利用すれば、手動でHDDアレイを検出して再構築できます。

1. HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）から、利用可能なSmartアレイの最新ファームウェアをダウンロードしてフラッシュします。

注：SA530xコントローラでは、リビジョンが3.54以降のファームウェアが必要です。SA640xコントローラでは、1.92以降のファームウェアが必要です。

2. HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）から、最新のアレイ コンフィギュレーションユーティリティ（ACU-XE）をダウンロードしてインストールします。ACU-XEのリビジョンは、6.42.1.0以降でなければなりません。
3. 内蔵HDDアレイが故障した場合、故障した物理ドライブを交換し、ACUユーティリティを開き、[Controller State]フィールドで[Refresh]を選択します。これにより、故障したアレイが再構築を開始します。これは必須の手順であり、ACUによって自動的に実行されません。

注：HDDの故障は、HP Integrity AgentsおよびWindowsのシステム イベント ログで検出されます。

ネットワーク ケーブルを接続しないでシステムを起動すると、システム イベント ログにエラーが記録される

問題：ネットワーク カードにLANケーブルを接続しないでシステムを起動すると、HP Insight NICエージェント サービスにより、システム イベント ログにエラーが記録されます。これは、ネットワーク接続がサービスによって検出されなかったためです。サービスは、ケーブルの接続不良とケーブル自体の不良とを区別できません。また、システム イベント ログにエラーが記録されると、システムのフロントパネルにあるアテンションLEDが点滅を開始します。

対策：ケーブルの接続を確認してください。ケーブルを意図的に接続しない場合は、エラーを無視してください。NICケーブルは、プラグを抜いたままにしないでください。

Adobe Acrobat Reader 6.0がWindows Server 2003, Datacenter Edition (64ビット) をサポートしない

問題：Adobe社のWebサイトからAdobe Acrobat Reader 6.0をダウンロードしようとしても、使用できるプラットフォームのリストでWindows Server 2003, Datacenter Edition (64ビット) OSが見つかりません。

対策：Adobe社のテキスト表示のみのダウンロード ページからAdobe Acrobat Readerをダウンロードしてください。これにより、Acrobat ReaderをWindowsの通常の方法でインストールできます。HP Integrity Superdomeでは、バージョン5.5以下を使用することをおすすめします。

カーネル メモリ ダンプが正常に生成されるようにするための必須手順

Windowsでは、ページ ファイルの自動管理が可能ですが、大容量メモリ構成のシステムでは、この機能をサポートするために、ユーザが希望する以上のディスク スペースを割り当てなければなりません。カーネル メモリ ダンプにより、システムの障害をデバッグする高度な機能が提供されます。管理者は、ページ ファイルのサイズを20GB以上に設定して、システム障害発生時にカーネル メモリ ダンプが正常に生成されるようにする必要があります。カーネル メモリ ダンプ用の20GBのページ ファイルは、すべてWindowsのシステム ボリュームだけに配置してください。他のページ ファイルは、他のボリューム上でも設定できますが、システム ボリューム上に、必ず、20GB以上のページ ファイルを配置してください。ページファイルサイズを増やすには、以下の手順に従ってください。

1. [システムのプロパティ]を開き、[詳細設定]タブを選択し、[パフォーマンス オプション]フレームに移動します。
2. [詳細設定]タブを選択します。
3. [仮想メモリ]の[変更]をクリックします。
4. [ドライブ]の下で、ページファイルを配置するボリュームを選択します。
5. [選択したドライブのページング ファイル サイズ]で、[システム管理サイズ]または[カスタム サイズ]を選択します。[システム管理サイズ]を選択すると、Windowsがページ ファイルを推奨サイズに設定します。このサイズが大きすぎる場合は、[カスタム サイズ]を選択して、サイズを20GBに設定してください。
6. 表示されているページで[OK]をクリックし、以降のプロパティ ページでも[OK]をクリックします。
7. [起動と回復]の[設定]をクリックします。
8. [デバッグ情報の書き込み]で[カーネル メモリ ダンプ]を選択します。
9. 表示されているページで[OK]をクリックし、以降のプロパティ ページでも[OK]をクリックします。

また、Windowsでは、システムの再起動後にページ ファイルのダンプをクリアしてディスク上の別のファイルに移します。十分に格納できる保存スペースのある場所に、最終ダンプ (memory.dmp) を書き込めるようにすることが重要です。このファイルはいずれのディスクにも書き込むことができます。

最終ダンプ ファイルの場所を表示または変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [マイ コンピュータ]を右クリックしてから、[プロパティ]をクリックします。
2. [詳細設定]タブを選択し、[起動と回復]の[設定]をクリックします。
3. [デバック情報の書き込み]で、下側のテキスト ボックスの[ダンプ ファイル]を設定します。
4. 20GBの空きスペースのある場所を選択します (これは大量のメモリ ダンプを格納するのに十分です)。

最後に、Microsoft QFE 822998をインストールする必要があります。これは、Microsoft社のWebサイトに ある diskdump.sys に関する QFE (<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;822998&Product=winsvr2003>) で入手できます。

応答しないシステムでダンプを作成する

この処置には、慎重な作業が求められます。慎重に作業を進めないと、システム障害が発生して、ソフト リセットが必要になります。システムが応答しない場合、以下のいずれかの方法を使用して、カーネルメモリ ダンプを作成できます。

1. SACのcrashdumpコマンドを使用します。SACプロンプトでcrashdumpとタイプします。SACの画面が更新され、致命的なシステム エラー「0x000000E2 - Manually Initiated Crash」が表示され、物理メモリのダンプを作成中であることが示されます。特定の状況で、別のバグコード「0x0000000A - IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL」がCEによって表示されることがあります。これは既知の問題であり、この場合でも有効なクラッシュ ダンプが作成されています。
2. MPを使用して、cmを入力しコマンド メニューを起動します。ダンプを開始するには、tcコマンドを使用します。SACの画面が更新され、致命的なシステム エラー「0x000000E2 - Manually Initiated Crash」が表示され、物理メモリのダンプを作成中であることが示されます。

再インストール用メディアを使用するときに16GBオプションを使用しない

システム パーティションは、32GB以上のディスク ドライブで構築する必要があります。再インストール用メディアを使用する場合、管理者およびCEは、システム ボリュームを構成する際に32GBまたは最大ドライブ サイズのオプションを使用する必要があります。ページ ファイル サイズを後になって手動で設定しない限り、16GBオプションを使用すると、システム障害の際にカーネルメモリ ダンプを作成できなくなります。さらに、16GBオプションを使用する場合にページ ファイル サイズを手動設定すると、ページファイルサイズは最小推奨サイズの20GBより少なくなります。

システム リストア メディアとページ ファイル

問題：ページ ファイル サイズを後になって手動で設定しない限り、16GBオプションを使用すると、システム障害の際にカーネルメモリ ダンプを作成できなくなります。

対策：システムパーティションは、32GB以上のディスクドライブで構築する必要があります。再インストール用メディアを使用する場合、管理者およびCEは、システムボリュームを構成する際に32GBまたは最大ドライブサイズのオプションを使用する必要があります。さらに、16GBオプションを使用する場合にページファイルサイズを手動設定すると、ページファイルサイズは最小推奨サイズの20GBより少なくなります。

Smartアレイ6400コントローラが、ADUを使用して正しいHDD IDを決定するように指示する

問題：EFI POSTの実行中に同一のアレイコントローラ上の別のID位置にハードディスクドライブを移動すると、システムは、ドライブ位置が変更されたことを報告します。また、以前の位置がわからなければ、Array Diagnostics Utility (ADU) を実行するように指示します。

対策：IA64サーバ用のArray Diagnostics Utilityは、後日、お届けする予定です。Smartアレイユーティリティの更新については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers>（英語）を参照してください。ドライブやアレイの移動について詳しくは、『Smartアレイ6400シリーズコントローラユーザガイド』を参照してください。

ACUを起動するためのリモートアクセスポート

問題：ACU Readmeの情報では、リモートアクセス用のポートは2831です。このポートが使用されるとACUは起動しません。記載されている指示が不明確であり、お客様がブラウザの構成を選択するとACUを起動できなくなります。

対策：リモートアクセス用の正しいポートは、2301であり、<http://<servername>:2301>となります。Windows上で64ビット版を実行する場合は、以下の手順に従ってください。

ローカルでACUを起動する場合には、以下の手順に従います。

1. [スタート]メニューから、[プログラム]、[HPシステム ツール]、[HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ]、[HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ]の順にクリックします。ACUが起動します。

リモートでACUを起動する場合には、以下の手順に従います。

1. [スタート]メニューから、[プログラム]、[HPシステム ツール]、[HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ]、[HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ]をクリックしてACUを起動します。ポート2301が使用されているときには、この方法によってACUを起動します。
2. 32ビット版のブラウザを開きます（リモートでサーバに接続するときには、32ビット版のブラウザを32ビットJVMとともに使用する必要があります）。
3. IEを起動して、<http://<servername>:2301>に接続します。ここで、<servername>は、サーバの名前またはサーバのIPアドレスです。[システム マネジメント ホームページ]が表示されます。
4. 管理者としてログインします。[Anonymous]をクリックし、ログイン画面が表示されたら、管理者としてログインします。デフォルトのパスワードはadministratorです。
5. [アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ]ボタンをクリックすると、ACUが起動します。

SMS Reflection Utility

問題：HP IntegrityサーバでPCIカードを構成中にSMS Reflection Utilityを使用すること。

対策：EFIのHP IntegrityサーバでSmartアレイ カードなどのPCIカードを構成している間は、SMS Reflection Utilityを使用しないようにしてください。

セキュリティQFE

問題：セキュリティの更新

対策：HPでプリロードされたHP Integrity Superdomeを購入された場合は、システムにプリロードされたHPのWindows Server 2003, Datacenter Edition (64ビット) のイメージに次のセキュリティQFEがすでに組み込まれています。

MS03-039 - RPCSSサービスのバッファ オーバーランにより、攻撃者によって悪質なプログラムが実行される (824146)

MS03-030 - DirectXの未チェックのバッファにより、システムが侵害される (819696)

MS03-023 - HTMLコンバータのバッファ オーバーランにより、コードが実行される (823559)

その他のQFE

821047 - HP Integrity Superdomeのパフォーマンスの向上

817688 - ntbackup.exeの更新

セキュリティ情報

次のセキュリティ情報は、最近Microsoft社がリリースして、HPがテストしたものですが、システムにプリロードされたHPのWindows Server 2003, Datacenter Edition (64ビット) のイメージには組み込まれていません。これらのセキュリティQFEをダウンロードしてください。Microsoft社のWebサイト <http://www.microsoft.com/japan/technet/treeview/default.asp?url2/japan/technetsecurity/bulletin/MS03-034.asp>からダウンロードできます。

Microsoftセキュリティ情報MS03-048 - Internet Explorer用の累積的なセキュリティ更新 (824145)

Microsoftセキュリティ情報MS03-045 - リストボックスおよびコンボボックスのコントロールのバッファ オーバーランにより、コードが実行される (824141)

Microsoftセキュリティ情報MS03-044 - Windowsの「ヘルプとサポート」のバッファ オーバーランにより、システムが侵害される (825119)

Microsoftセキュリティ情報MS03-043 - メッセージ サービスのバッファ オーバーランにより、コードが実行される (828035)

Microsoftセキュリティ情報MS03-041 - Authenticodeの検証の脆弱性により、リモートでコードが実行される (823182)

Microsoftセキュリティ情報MS03-034 - NetBIOSの問題により、情報が漏えいする (824105)

EFIに関する補足情報

EFIに関する補足情報

Intel社の提供するEFI情報は、Webサイト<http://www.intel.com/technology/efi/>で入手できます。